

(仮称)新白滝山風力発電事業に係る環境影響評価方法書に対する知事意見の概要

項目	主な意見
【全体的事項】	
	<ul style="list-style-type: none"> ○環境影響評価の実施に当たっては、工事計画を具体化し、方法書で選定した評価項目等を再検証の上、適切に調査・予測・評価を行うこと ○本事業の実施による重大な影響を回避・低減できない場合には、風力発電設備等の配置の再検討、事業区域の見直しや基数の削減を含む事業計画の見直しを行うこと ○準備書では、具体化した計画全体、環境影響評価の結果を明確に記載するとともに、評価項目等を見直した場合は、その検討過程についても分かりやすく記載すること ○河川水質・水量の変化や土地改変に係る懸念等、地域住民等の意見に真摯に向き合い、不安の払しょくに努めた説明を行うなど、相互理解の促進に努めること
【個別的事項】	
騒音	<ul style="list-style-type: none"> ○既設風力発電設備からの風車騒音の発生状況も含めて把握可能な適切な調査地点が選定されているか再検証し、適切に調査・予測・評価を行うこと ○超低周波音の影響について、地域住民等への適切な説明が行えるよう、最新の知見に基づく適切な評価を行うこと
水環境	<ul style="list-style-type: none"> ○既設風力発電所の設置に伴う水環境の変化状況も可能な限り把握するとともに、河川流域ごとに流量予測を行うなどにより、適切な方法で予測・評価を行うこと ○イシドジョウの生息が確認されていることを踏まえ、水生生物の生態を的確に把握した上で、適切な予測・評価を行うこと
動植物生態系	<ul style="list-style-type: none"> ○クマタカ等、鳥類の衝突に関しては、施設稼働後もモニタリングを実施し、その結果に応じた適切な対応を検討すること ○本事業の実施に伴う動植物の生息・生育範囲の変化について、適切に調査・予測・評価を行い、必要な保全措置を検討すること
景観	<ul style="list-style-type: none"> ○風力発電設備が視認されることによって生ずる不安感や圧迫感が低減されたものとなるよう努めること
人触れの場	<ul style="list-style-type: none"> ○利用実態を的確に把握した上で、本事業の実施による影響を適切に予測・評価し、新たな価値の創造も含めた必要な保全措置を検討すること
廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物及び建設発生土は、発生抑制や有効利用等についても検討し、適切に予測・評価し、必要な保全措置を検討すること